

# フランスでみた 日本との違い

津田塾大学

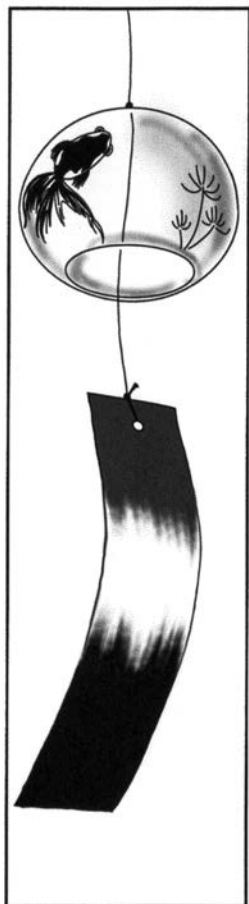
教授 萱野 稔人 氏



教育随想

私は大学卒業後、大学院に進学するためにフランスに留学したが、そこでみた小中学校の様子が日本とは大きく異なっていてとても驚いた。フランスの小中学校では授業以外の活動がきわめて少ないのである。

たとえば文化祭や学芸会のような年中行事がない。学校ごとに催行する修学旅行もない。日常的な光景で言えば、掃除当番も給食当番もない。校内の掃除は清掃員がするし、給食については、スタッフのいる食堂に給食をとりたい児童・生徒がいき、各自で食べるというスタイルだ。児童・生徒たちを班に分けるようなこともない。そもそも班に分けるような活動がないからである。部活動もない。スポーツをしたい子どもたちは地域のスポーツクラブや教室に通う。



日本から見ると少し寂しい気もするかもしれない。しかし、フランスの子どもたちは、これで十分学校生活を楽しんでいる様子だった。保護者からの不満も特にでていなかった。

逆に言うと、フランスの小中学校の教員は授業以外の仕事をほとんどしなくていい。また、授業についても決められた教科書がなく、年間の教育内容が定められているだけなので、各教員の裁量はとても大きい。これに対して日本の小中学校の教員は、山のような授業以外の仕事をこ

なしながら、細部まで決められた授業をする。とても大変だ。

近年の日本では教員の長時間労働や教員のなり手不足といった問題が深刻化しているという。そうした問題をまえに私の頭に浮かぶのは日本とフランスのあまりに大きな違いだ。もちろんフランスのあり方が正解というわけではない。フランスの教育が抱える問題も数多くみてきた。ただ、両者の対比は、何かのヒントにはなるはずだ。

(かやの としひと)



令和5年8月1日

## 8月号

発行・編集  
岡崎市教育委員会

### 今月の紙面

- 教育随想…………… 1  
津田塾大学  
教授 萱野 稔人 氏
- この人に聞く…………… 2  
駄菓子屋・障がいヘルパー合同会社  
代表 杉浦 幸博 氏
- 羅針盤…………… 2  
新香山中学校  
校長 小田 哲也
- ふれあい…………… 3  
東海中学校  
教諭 竹内 翔
- 特集…………… 4  
月報「岡崎の教育」50周年企画  
「回想」特集ページ
- お知らせ…………… 6
- フォト・ヒストリー… 8  
完工・開校・入学式(昭和59年)
- この本を…………… 8



### 人と人をつなぐ駄菓子屋

駄菓子屋・障がいヘルパー合同会社

代表 杉浦 幸博氏

店前に置かれたテーブルで高校生らしき青年が二人、お気に入りの駄菓子について語り合っている。店内では懐かしい駄菓子が所狭しと並び、お客さんが途切れることなく訪れる。どのお客さんの顔も、楽しそうだ。笑顔が集まる駄菓子屋が、根石学区にある。

—なぜ、駄菓子屋を始めたのですか—

実は、駄菓子屋を開くことが目的ではありませんでした。元々、私も障がいがあります。地域の方たちと分け隔てなく関わり合える、縁側のような場所を作りたいと考えました。しかし、「お年寄りも子供も、障がいの有無も関係なく、気軽に集まれる場所ですよ」と言っても、言葉だけでは伝わりにくいものです。そこで、誰もが気軽に立ち寄れるように、ヘルパー事業所と駄菓子屋とを併設しました。地域の方の協力や、

学区の子供たち、保護者の方々の口コミのおかげで、今ではたくさんの方が来てくださるようになりました。—この十三年間は順調でしたか—

苦しかったときはたくさんあります。駄菓子屋はもうかる商売ではありません。特に、コロナ禍の自粛期間中は大変でした。お客さんも来ることができないし、障がいのある私たちも感染すると症状がひどくなる危険性があり、お店を開けることができない時期がありました。でも、「今日、お店は開いていますか」と電話があると、私のお店を楽しみにしてくださっている人たちがいることが分かり、励みになりました。

今は、物価高の影響を受けています。それぞれの駄菓子が、二円、五円と値上がりすると、子供たちはお小遣いで買える駄菓子を一つ減らすしかありません。子供たちにはわくわくした思いで選んでもらいたくて、値段を上げない努力もしています。

—つながりをつくるために大切にしていることはありますか—

子供たちと同じ目線で接することです。障がいのある私たちも、お店に立っています。会計のときに待たせてしまったり、こちらの意図がうまく伝わらなかつたりすることがあります。でも、子供たちは、ちゃんと待つてくれるのです。初めて来て戸惑っている子に「僕が代わりに教えるね」と助けてくれる子もいます。

障がいのある人はどうしても特別な目で見られることがあります。しかしそれは初めだけです。子供たちの素直な疑問や興味にまっすぐに向

き合い関わり合うことで、子供たちは自然に受け入れてくれるようになるのだと感じます。今では、街で私を見つけた小学生が、道の向こう側から「杉くん」って声をかけてくれることもあります。

—地域にとつて、どんな存在でありたいと思いますか—

この駄菓子屋が、出会いのきっかけの場所であり続けることを目指しています。先日、オープン時に通っていた子が来てくれました。車に乗って、彼女を連れて、すっかり大人になつていました。「昔来ていたけれど、覚えていますか」と声を掛けられました。小学生のころの顔が浮かんで、うれしくなりました。

昔、ここに通っていた子たちが、懐かしく思つて、また友達や家族と一緒に来てくれて、そこから新しい関わりが広がっていくよと思つています。

さらに言えば、その子たちが地域のための何かに参加してくれたり、手伝ってくれたりするようになれば、もっと素敵です。ですから、これからも、年齢の差や障がいの有無に関係なく、誰もがわくわくして関わり合えるお店づくりやイベントづくりに努めていきたいと思つています。



氏名 すぎうら ゆきひろ  
生年月日 昭和五十三年十月二十四日  
住所 岡崎市欠町



### 子供は応えてくれる

新香山中学校

校長 小田 哲也

「こどもの日」の新聞記事といえば、こいのぼりや五月人形が定番だ。しかし今年の一面は少し違った。「勉強の意欲がわかない 小中高生初の六割超え」の見出しが紙面を占めた。この衝撃的な記事の内容は、東京大学社会科学研究所とベネッセ教育総合研究所の調査によるものだった。

本校も似たような傾向が見られた。二年前は新型コロナウイルス感染症が流行し、朝の正門で「おはよう」と声をかけても小さな声での挨拶や会釈が多かった。手を振って挨拶しても、振り返す姿は見られなかった。教育活動診断アンケートにある「学校が楽しいか」の設問についても、「とてもあてはまる」と回答した割合が、十年前に比べて半減していた。この傾向がコロナや社会的な原因によるものであっても、子供の成長



## 居場所の選択肢を増やす

東海中学校

教諭 竹内 翔



先日、卒業生のAさんが中学校を訪ねてきた。「ちゃんと学校行つてます。これ見てください」と自慢げに通知表を差し出した。

中学生のころのAさんは集団生活になじめず、F組で学校生活を送っていた。Aさんは、感受性が豊かな生徒であった。敏感なゆえに対人関係で疲れることがあったようだった。F組の担任だった私は、Aさんが落ち着いて過ごせる居場所をつくることを目指し、極力時間を共有するようにした。徐々にAさんは心を開いて話をしてくれるようになり、友達のこと、趣味のこと、多くのことを語った。そして、教室でみんなと一緒に授業を受けたい気持ちがあることも、そつと教えてくれた。

ある日、Aさんは、普段登校する

時間に姿を見せなかった。校内を探すと校庭の隅で一人涙を流していた。「全然思うようにいかない。F組にいたら自分はどんだんだめになる。」そう話すAさんに、  
「F組では安心して生活することができていないかな。」  
と尋ねると、

「居心地がいいからこそ苦しいこともあります。」

と小さくつぶやいた。

その言葉を聞いて、私は何も答えることができなかった。本当はみんなと同じように授業を受けたいという強い願いがあったことに気付けずいたのではないか。F組をAさんの居場所にするのではなく、F組をAさんの選択肢の一つにするべきであった。

それからは、他の教員や在籍学級の友達と関わる機会を積極的に設定した。在籍学級の担任も、絵を描くのが得意なAさんの絵を修学旅行のしおりの表紙に選んだり、体育大会の学年演技への参加を促したりして、在籍学級での居場所づくりに努めた。

十月、Aさんは文化祭の合唱コンクールに参加したいと申し出た。そして、自らF組で練習を重ね、在籍学級の仲間と舞台に立つことができた。自分の気持ちに折り合いをつけ

ながら、今できることを選択し、努力し、自立した姿がそこにあった。

結局最後まで授業には参加できなかったが、F組で自分なりのペースで学習し、進学先も決めることができた。卒業式の前日、Aさんは私を呼び止め、

「F組でいろいろな人たちが支えてくれたから私には居場所がたくさんあります。ありがとうございます。」と話した。そして、翌日、仲間とともに卒業式に出席した。

数か月ぶりに中学校を訪れたAさんは、満面の笑顔で近況報告をする。軽やかな足取りでF組を後にした。西日を受けて輝く背中が、頼もしく見えた。生徒の居場所の選択肢を増やすF組のような場所の大切さを、実感した瞬間だった。



が著しい義務教育期は今しかない。早速、学校に活力を取り戻そうと、子供の意見を取り入れて行事を計画し、生徒会レクリエーションなどを増やした。そのおかげで子供に笑顔が見られるようになったと感じた。その他にも様々な試みをしたが、一月のアンケートにおいて「学校が楽しい」との回答は増えなかった。

昨年は授業改革と長期欠席者対策。魅力ある授業と親和的な学級での居場所づくりを始めた。授業ではどの子も発話し参加する機会を設け、学級では共感を基盤に協働的に学ぶことの楽しさを感じられるようにした。併せて学校行事に、子供のやりたい内容を取り入れた。子供と教師で、いろいろなことに取り組んだ。アンケートで「学校が楽しい」と回答した割合が、やつと増加傾向になった。課題に立ち向かって、何ともならないときもある。それでも信念をもち、地道に手立てを講じるのが、岡崎の教師。四月、始業式の式辞で、「今年も手を振って声をかけるから」と言っ手手を振ると、二、三年生の子供のほとんどが、自席から大きく手を振って応えてくれた。時間はかかって、子供が成長する姿を見るのは教師冥利に尽きる。

## 月報「岡崎の教育」50周年企画

## 回想 特集ページ



▲今まで発行されてきた特集ページ

毎月一日に発行される月報「岡崎の教育」。今年度、五十周年を迎えた本誌を、これまでの特集ページに焦点を当てて振り返った。

特集の掲載は、昭和四十九年七月号より始まった。初の特集記事は「通知票」であった。通知票は教師と保護者をつなぐものであり、今と変わらず、学校と家庭との連携が大切であると述べられている。昭和五十二年からは、「岡崎再見」と銘打って、七十一回に渡って、岡崎の伝統文化や歴史的建造物が紹介された。昭和五十四年の七月号では、岡崎の打上げ花火が取り上げられている。

その後、時代の移り変わりに伴って、発行の方法の一つとしてデジタル化もされたが、本誌のもつ意義は一貫して変わらない。今回、月報の編集に長年携わられた、元根石小学校長、山田禮子先生に、お話を伺った。山田先生は、月報の魅力を「井の中から飛び出す道しるべ」と表現した。多忙な日々を過ごしている先生方が井の外に目を向けるきっかけとなる特集を、今後も発行していきたい。

## ○山田禮子先生に聞く

—五十周年を迎えた月報に思うことは—

現在はデジタルの時代です。この時代の中でも、ネットや新聞にはない岡崎ならではの最新情報を伝えられるのが月報です。月報が発行されたときに読者が読もうと思ひ、さらに読んでよかったと感じてもらえる月報であり続けてほしいと思います。

—月報「特集」の魅力とは—

私たちは井の中の蛙ではありません。自分の見識を広げ、深める必要があります。一方で日々多くの仕事を抱えていることも事実です。日々の業務に追われてばかりでは、新しい情報を手に入れる機会を逃してしまいます。そのようにときに、月報で他校の動向を知ることや、教育以外の情報に触れることが、外の世界に目を向け動き出すきっかけになります。まさに、井の中から飛び出す道しるべです。月報は岡崎独自のものであり、誇りです。

さらに、「特集」は井の外の情報を写真で伝えてくれます。例えて言うならば、過去・現在・未来が縦の糸、市内の動向や実践事例等が横の糸であり、その二種類の糸を紡ぎ合わせる役目を、特集は担っています。特集を組まれた記事や写真を見ることで、井の中にあるだけではない別世界や別視点の情報を得ることが出来ます。これが、特集の魅力だと思います。

—今後の本誌や読者に期待することは—

これからも月報は、読者をひきつけられるものであってほしいと思います。また、読者の方も記事を読んで感動したとき、それは文章のどこにひきつけられたのかを、汲み取りながら読んでほしいと思います。言葉は力です。教師が言葉の力を身に付けることで、岡崎の子供たちにも力が付きます。月報を読むことを通して、言葉の力を伸ばしてほしいと願っています。

◇先生のご紹介◇

山田 禮子(やまだ れいこ)

元矢作東小学校長、元根石小学校長

元現職研修委員会国語部長

教育委員会指導主事として月報を担当した後、平成十七年から御退職までの十年間、連続で編集委員、編集委員長として、月報の編集に携わった。



▲特集記事について語られる山田先生



★ ★ ★ ★ 特集された記事を振り返る ★ ★ ★ ★



▲岡崎の鯉のぼり (H14.5月号)  
全国的にも高い生産量を誇った岡崎の鯉のぼり



▲レッドサラマンダー (H30.1月号)  
岡崎市に配備された、無限軌道災害対応車



▲未来へつなぐ岡崎版 SDGs (R3.12月号)  
時代の変化に対応する、岡崎版 SDGs の活動



▲通知票 (S49.7月号)  
初めての特集で取り上げられたのは「通知票」



▲「岡崎再見」打上げ花火 (S54.7月号)  
岡崎の価値に改めて気付ける「打上げ花火」



▲ウデバラ中学生の親善使節 (S55.11月号)  
岡崎市から初めて、中学生が海外へ派遣

PC やスマートフォンなどから、過去の月報「岡崎の教育」を閲覧することができます。

Check



HP・発行物

現職研修委員会ホームページ

教育施設ホームページ

教育年鑑

各種発行物

岡崎市 教職員ポータルサイト



月報「岡崎の教育」

月報「視聴覚教育」



●ハートピアだより

ハートピア岡崎の特長

全国的に学校へ通えない子が増加していることが問題になっていきます。そのような子たちの学校復帰や社会的自立に向けた支援をするための施設として、岡崎市では、校外フリースクール ハートピア岡崎（竜美と上地の二か所）が設置されています。

市が設置するフリースクールとして、次の三点を特長として挙げることができると考えています。

一つ目は、「学校と連携した支援ができる」ことです。定期的、または必要がある場合に、学校とハートピアが通所生の情報を密に交換するとともに、それぞれがどのように

支援していくかを打ち合わせています。また、通所に会うために度々ハートピアを訪ねてくれる先生もいます。学校とハートピアの両輪で通所生を支えていけるところは大きな利点だと考えています。

二つ目は、「日課に沿って過ごす中で、生活リズムを整える」ことです。午前中のほれほれタイムでは個人活動を行い、各自が計画を立てて学習活動や創作活動等を行います。午後のほあほあタイムでは通所生全員で軽運動やカードゲーム等を行います。このようなサイクルで生活することで、生活のリズムを作ることができると考えています。

三つ目は、「細やかに子どもを見取り、その子に合った支援ができる」ことです。ハートピアには、指導員が六名と臨床心理士一名（週に二日）が勤務しています。多くの目でその子の状態を捉え、日々情報交換をしながら支援方法を協議しています。通所生こ

とに担当する指導員を決めています。また、指導員全員がどの子にも積極的に関わり、その子の変化を見落とすことがないようにしています。「学校へ登校できないのなら、ハートピアにおいて」と見学に来た子に呼びかけています。私たちの願いは、家庭に引きこもっている子をなくし、学校復帰や社会的自立に向けた支援をすることです。今後よりよいハートピアの在り方を模索し、学校へ登校できない子どもたちの居場所作りに励んでいきたいと思っています。



<ほあほあタイム(風船バレー)>

●表彰

- ◆日清食品カップ愛知県小学生陸上競技交流大会 兼
- 第9回東海小学生選手権大会
- 愛知県予選会
- 第40回愛知県小学生リレー競走大会

- 小学4年女子
- ジャベリックボール投
- 2位 男川小 村松 希衣

- ◆第26回愛知県中学校選抜混成競技大会 兼
- 第50回全日本中学校陸上競技選手権大会標準記録突破指定大会

- 男子四種競技
- 3位 美川中 和知 志侑
- 女子四種競技
- 2位 矢作北中 夏目 純佳

- ◆第45回愛知県中学生相撲大会
- 個人
- 優勝 常磐中 鈴木 龍

- ◆第53回愛知県ジュニア体操競技選手権大会
- 〈男子2部中学生〉
- 種目別・鉄棒
- 優勝 六ツ美中 二階堂 律

教職員の相談窓口

【対象】全教職員 【相談内容】・勤務のこと・家庭のこと・心や体のこと 等

番号	相談窓口	電話番号	相談受付日時
1	岡崎市教職員相談ダイヤル	0564-64-3322	火曜日～金曜日 12:00～19:00 土曜日 12:00～16:30
2	岡崎市こころのホットライン	0564-64-7830	月曜日～金曜日 13:00～20:00
3	愛知県総合教育センター教育相談	0561-38-2217	月曜日～金曜日 9:00～16:00
4	あいこころのホットライン 365	052-951-2881	年中無休 9:00～16:30
5	名古屋いのちの電話	052-931-4343	年中無休 24時間



第67回岡崎市中学校総合体育大会

団体結果

種 目	性	優 勝	第2位	第3位	種 目	性	優 勝	第2位	第3位		
陸 上 競 技	男子	六美北	竜海	矢作北	ハンドボール (女子はオープン競技)	男子	竜南	葵	美川		
	女子	矢作北	新香山	竜海		女子	美川				
バスケットボール	男子	翔南	葵	甲山	美川	軟式野球 (女子)	男子	六美北	新香山	矢作北	北
	女子	六美北	竜海	矢作北	甲山		ソフトボール	女子	矢作北	竜海	城北
バレーボール	男子	矢作	矢作北	新香山	東海	柔 道	男子	矢作北	甲山	矢作	
	女子	新香山	美川	矢作	矢作北		女子	矢作	甲山		
ソフトテニス	男子	城北	矢作	矢作北	美川	サ ッ カ ー (男子)	男子	新香山	竜南	甲山	附 属
	女子	矢作	常磐	竜海	甲山		弓 道 (オープン競技)	男子	幸田北B	幸田北A	幸田北C
卓 球	男子	矢作北	竜海	城北	矢作	女子	幸田北A	幸田北B	幸田A		
	女子	竜海	新香山	北	矢作	水 泳	男子	矢作北	矢作	六美北	
剣 道	男子	矢作	額田	矢作北	六美北		女子	矢作北	竜海	六美北	
	女子	竜海	矢作北	矢作	六美北						

陸上競技

新…大会新記録

性	種 目	氏 名	校名	記 録
男 子	100m	小島 昊大	東海	11"32
	200m	片山 大馳	六美北	24"38
	400m	佐藤 海幸	六美北	55"98
	800m	竹山 迅	城北	2'10"68
	2年1500m	太田 至	六美北	4'32"45
	3年1500m	本間 翔希	六美北	4'27"74
	3000m	稲垣 諒也	矢作北	9'08"68
	110mH	権田 颯志	翔南	新 14"71
	4×100mR	大川・松本 川上・小島	東海	46"07
	走高跳	宮川凛太郎	矢作北	1m65
	棒高跳	伊藤 樹	南	2m20
	走幅跳	金子 陽音	城北	5m58
	砲丸投	宮地 嵐俄	福岡	9m80
	女 子	100m	大見 由奈	矢作北
200m		畔柳 麻央	葵	28"67
800m		山本 愛子	新香山	2'28"86
1500m		本田 結彩	新香山	4'50"53
3000m		内藤 結菜	竜海	11'05"32
100mH		黒柳 紗依	甲山	15"38
4×100mR		永田・大見 夏目・田島	矢作北	51"71
走高跳		夏目 純佳	矢作北	1m55
走幅跳		石橋 乙夏	城北	4m56
砲丸投		今井 優希	南	9m85

水泳競技

新…大会新記録

種 目	男 子			女 子		
	氏 名	校名	記 録	氏 名	校名	記 録
50m 自由形	栗田連太郎	城北	26"73	加藤 美月	甲山	29"71
100m 自由形	杉本 直樹	翔南	58"81	片山 灯夏	北	1'03"50
200m 自由形	船越 健	竜南	2'05"72	秋田 琉莉	新香山	2'20"64
50m 平泳ぎ	岡田 爽良	矢作北	33"31	三石 紗瑛	岩津	38"01
100m 平泳ぎ	鈴掛 雄大	葵	1'14"09	岸原くるみ	城北	1'18"84
50m バタフライ	石川 煌起	矢作北	28"76	益田陽花梨	矢作北	31"52
100m バタフライ	服部 羽恭	六美北	1'03"52	岩崎清緒良	葵	1'11"11
50m 背泳ぎ	鈴木 咲哉	甲山	32"33	柴田 奈那	甲山	34"85
100m 背泳ぎ	加藤 絆	甲山	新 1'02"39	成瀬 叶絆	新香山	1'19"20
200m 個人バドレー	荻野 暖万	甲山	2'28"86	柴田 歩波	翔南	2'39"25
4×100mR	岡田・葛西 川原井・石川	矢作北	4'09"57	齊藤・田村 池野・長岡	矢作	4'43"21
4×100m メドレーR	小澤・岡田 石川・葛西	矢作北	4'32"84	高野・竹下 土屋・高木	竜南	5'12"61

柔 道

男 子			女 子		
階級	氏 名	校名	階級	氏 名	校名
軽量級	古居 優汰	矢作	軽量級	中根茉乙渚	甲山
軽中量級	矢藤静一郎	竜海	軽中量級	関口 美虹	矢作北
中量級	田中 善	六美北	中量級	原田 愛菜	甲山
重量級	郷 秉昀	附 属			

弓 道

	氏 名	校名
男 子	山口 侑真	幸田北
女 子	小山田彩来	幸田北



・カ  
ツ  
ト  
  
美  
川  
中  
  
杉  
浦  
彩  
貴

# 完工・開校・入学式 (昭和59年)

写真提供：新香山中学校

昭和五十九年四月、新香山中学校において、完工・開校・入学式が行われた。体育館が未完成だったため、教室の椅子を運動場に並べて執り行われた。

旧香山中と細川小学区に住む岩津中の生徒が通うことになった新香山中学校は、山を切り開き新設された。自然豊かな環境を生かし、生物との共生や環境保全をテーマに長年総合的な学習の時間に取り組んできた。今年度は開校四十周年を迎え、ESDをテーマに研究会も開催される。

市内には、創立から百五十年を超える学校もある。各校の歴史は、子供たちを育て送り出してきた岡崎の教育の確かな足跡として、未来への礎になっている。



年を追うごとに変化する教育現場。月報「岡崎の教育」は教育の変化や市全体の動向を取り上げてきた。

しかし、発行当初から変わらないことがある。それは、岡崎の教員が岡崎の教育のために発行しているという点である。今後も岡崎の教育を進展させるきっかけとなる発行紙にしていきたい。

## とホ

ポケットに百円玉を入れて、駄菓子屋に通った小学生のころ。一緒に遊んだ友達と横顔と、けたけた笑う店主の声を思い出して、懐かしくなった。杉くんの店から、楽しそうに駄菓子を選ばず子供の声か響いている。この店で過ごした子供たちの思い出は、きっと根石学区の未来へとつながっていくのだろう。

## 禁目ツ



▲「準備開始」  
夏休みを利用した、学芸会大道具の準備(男川小)

ツクツクボウシの鳴き声が届く教室。夏休みになり、子供たちの笑い声に代わって、一段と大きく聞こえてくる。

みんなは楽しい時間を過ごしているのかな。誰もいない教室にいても、子供たちの健康や安全を願う教師でありたい。そして、始業式には最高の笑顔で迎えたい。



\*「いのちの授業」をつくる 鈴木中人 玉置 崇  
さくら社 ¥1,600

### 心に残った一文

子どもに「いのち」を教えるとは、心に百年の「いのちの木」を育てることではないでしょうか。

宗教、民族、政治、貧困など、世界中で紛争の火種は絶えず、今も多くの尊い人命が失われている。命よりも優先される理念、思想があるのかと問いたくなる。

本書に語られる、実子を小児がんで亡くした著者の思いは、読む者の胸を打つ。かけがえのない命とその大切さを、我々はどう伝えればよいのか。その糸口は、本書の三つの命題「命を実感する」「命の真理を知る」「どう生きるかを思う」にある。平和を尊び、自他の限りある命を大切に、共に生きる社会の実現に向け、教育が果たす役割は大きい。

- \* 徳川家康 弱者の戦略 磯田道史 ¥800  
文芸春秋
  - \* 他者と生きる 磯野真穂 ¥900  
集英社
  - \* 人類は何を失いつつあるか 山極寿一 関野吉晴 ¥740  
朝日新聞出版
- 東海中 長谷川勝一